

# 作業従事者の健康を守る(3つの管理)

○作業環境管理(働く環境を整える)  
隣室から遠隔にて切断装置を操作  
・PCB濃度に対応したレベル管理・  
作業環境測定



○作業管理(ルールを作り守る)  
保護具着用・作業時間の設定・入  
退室管理

○健康管理(チェック・ケア)  
健康診断・血液中のPCB  
濃度測定・産業医相談

# 情報公開型施設と運営

## 施設内情報公開設備

### 見学通路

主要な工程を安全に見学通路から見学できます。



### プレゼンテーションルーム

施設概要、処理の安全性などの情報について、分かりやすく紹介します。



### 情報公開ルーム

リアルタイムで各工程の運転状況、モニタリングの状況などを表示しています。



## 施設外情報公開

機器トラブルを含めPCB廃棄物処理に関わる各種情報をホームページに公表します。

## 各種会議

監視部会(有識者、住民等)

近畿ブロック協議会(行政担当)

事業部会(学識経験者)

信頼され安心感のある安全な施設

# これまでのPCB処理事業の進捗状況

## JESCO北海道事業

	進捗率	課題
トランス類	63%	超大型トランス
コンデンサ類	49%	特殊コンデンサ
安定器等・汚染物	本年9月から処理開始	

## JESCO大阪事業

	進捗率	課題
トランス類	60%	PPコンデンサ
コンデンサ類	54%	
安定器等・汚染物	処理体制なし	粉末活性炭

## JESCO東京事業

	進捗率	課題
トランス類	52%	コンデンサ
コンデンサ類	34%	
安定器等・汚染物	処理体制なし	

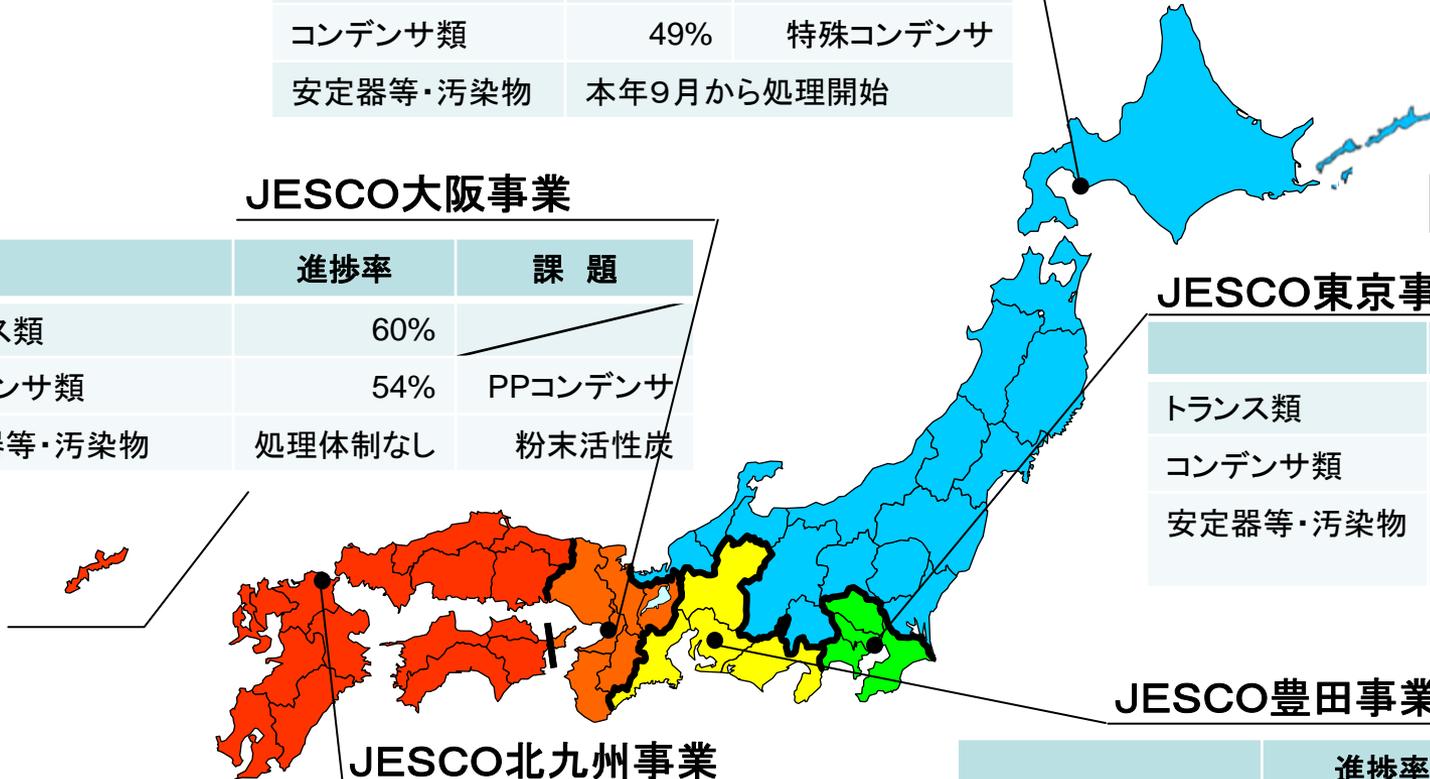
## JESCO豊田事業

	進捗率	課題
トランス類	60%	車載トランス
コンデンサ類	55%	特殊コンデンサ
安定器等・汚染物	処理体制なし	

## JESCO北九州事業

	進捗率	課題
トランス類	75%	
コンデンサ類	69%	
安定器等・汚染物	約5割	粉末活性炭

平成25年10月末時点



# PCB廃棄物の処理工程・処理体制に関する課題

## 高圧トランス・コンデンサ等の課題

北九州事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>高濃度PCBを含む廃粉末活性炭(処理に伴い施設内で生じる運転廃棄物) ⇒自事業所での処理は、設備の閉塞による稼働率の低下が懸念</li> </ul>
豊田事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊コンデンサ、車載トランス ⇒施設改造による処理量確保に限界があり、処理の長期化が懸念</li> </ul>
東京事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙類の処理に課題があり、トランス、コンデンサの処理に時間がかかる。 ⇒自事業所の設備を最大限活用し、処理を行ったとしても、長期間を要する</li> </ul>
大阪事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポリプロピレン等を使用したコンデンサ(PPコンデンサ) ⇒処理のためには破裂防止措置が必要。その他廃粉末活性炭の処理が北九州事業と同様の課題</li> </ul>
北海道事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊コンデンサ、超大型トランス ⇒特殊コンデンサ、施設に搬入できない(超大型トランス)ものがあり、自事業所では処理が困難</li> </ul>

トランス



コンデンサ



## 安定器等・汚染物の課題

- JESCO豊田・東京・大阪事業エリアにおいては、安定器等・汚染物の処理の見込みが立っていない。
  - ✓ 国は、豊田・東京・大阪エリアの処理体制を確保することができなかった。
- 今の段階での、新たな施設整備は現実的に困難。



安定器



小型電気機器



感圧複写紙



家電製品用コンデンサ

# 今後の処理促進策についての考え方

1. 日本全体のPCBを1日でも早期に処理するための計画とする。
2. そのため、JESCO各事業所の能力を最大限活用する処理体制の構築が不可欠。
3. 今後も安全操業を第一としつつ、計画的かつ早期に処理が行われるよう取り組んでいく。



## 高圧トランス・コンデンサ等の課題

- 各事業所において円滑に処理を行うことが困難な処理対象物については、他の事業所の処理能力を活用することで一日も早い円滑な処理が可能となる。
- 今後は、当該処理対象物に限り、従来の事業対象地域を越えて各事業所の能力を相互に活用して処理を行い、処理の促進を図ることとしたい。

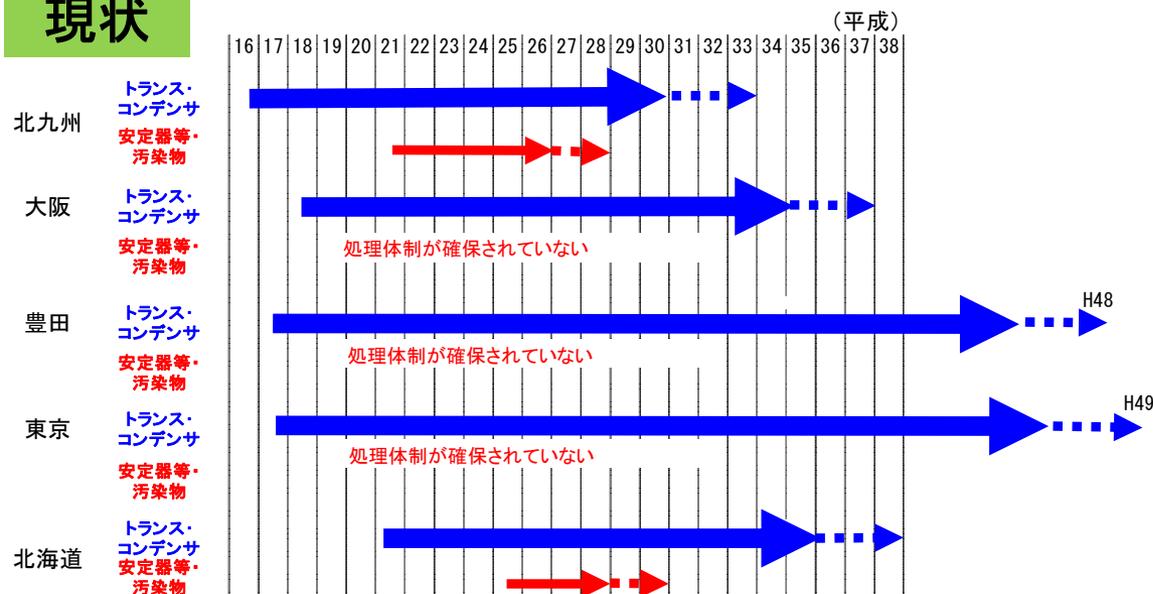
## 安定器等・汚染物の課題

- 大阪・豊田・東京事業エリアにおける処理体制の確保に取り組んできたが、体制確保の見込みは全くなく、早期に処理体制を確保するため既存のJESCO処理施設の活用を図ることとしたい。



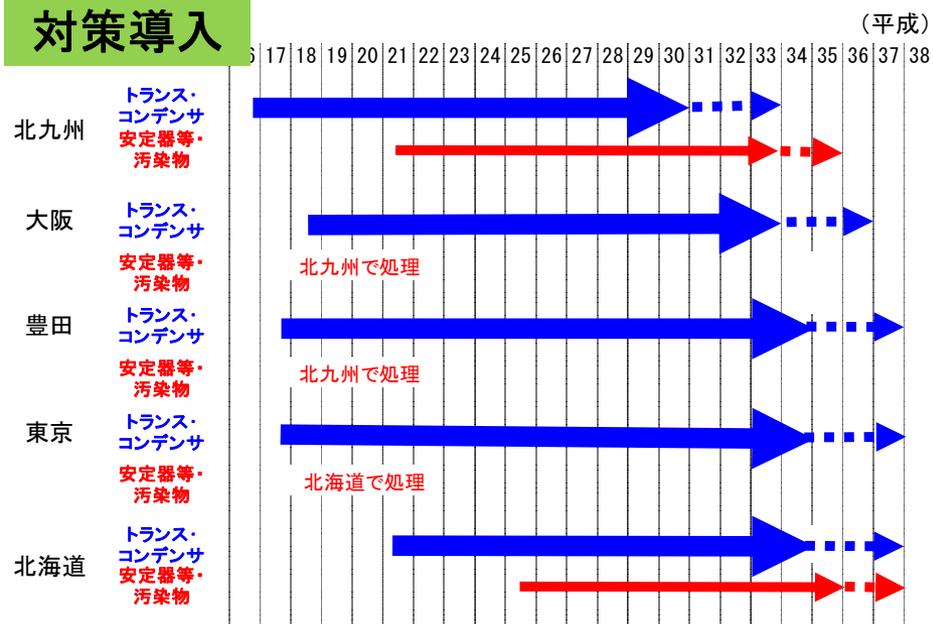
# 処理期間

## 現状



- 今後見込まれる年間当たりの処理量で推移した場合には、実線部分で処理が完了する見込み。

## 対策導入

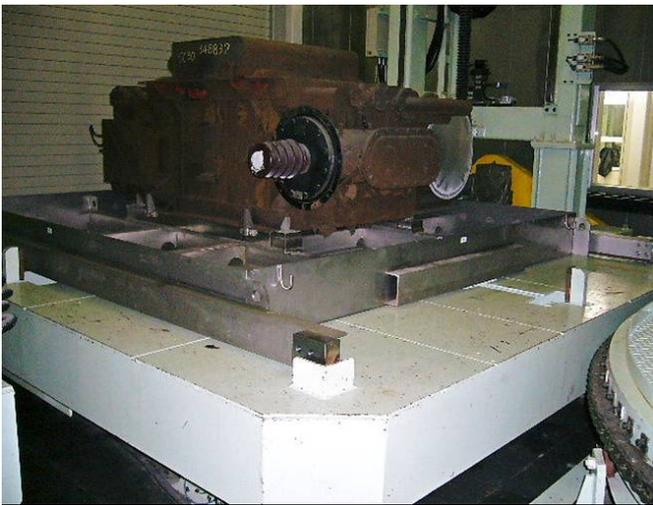


- 「処理に手間がかかる機器の存在」や、「現在使用中の機器が存在」することを勘案し、高圧トランス・コンデンサ等で3年、安定器等・汚染物で2年間の期間を設けている。

# 車載トランス

## ■ 報告書に示された課題等

- 車載トランスは内部構造の複雑性等により、洗浄工程において当初想定の数倍の時間が必要となっている。
- 全国的な分布に偏りがあり、事業所ごとの処理終了見込み時期に差がある。  
特に豊田エリアに集中して保管されている。



車載トランスの外観



内部部材の取り出しの様子



コイルの裁断の様子

# 車載トランス

## ■報告書とりまとめ後の取組状況、課題等

○豊田事業所において、予備洗浄場所の増設(1台→3台)による処理能力の向上を図ってきた。(年間処理台数27台→42台に増大)

○しかしながら、豊田事業所の施設スペースは限定的。これまで講じてきた以上の追加的な設備の設置は困難。

○豊田事業所のみで処理を行うと、平成39年度までかかる試算。

## ■今後の処理促進策案(報告書試案のとおり)

東京事業所、大阪事業所、北九州事業所において豊田エリア内にある車載トランスの一部の処理を行う。

【処理量の目安】(今後各事業所における処理の状況により変化する可能性あり)

豊田エリア内の車載トランス641台のうち、

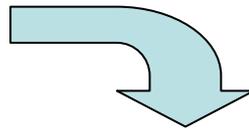
北九州事業で概ね150台、東京事業で概ね30台、大阪事業で概ね30台を処理。

※豊田事業所における取組により、他事業所での処理量が試案段階から約半減。

# 特殊コンデンサ

## ■ 報告書に示された課題等

- 豊田エリアには特殊コンデンサが多く保管されており、手解体による処理を行うこととしていたが、作業環境が悪化することから、全く処理が進んでいない状況。
- 小型トランスラインの一部をコンデンサラインに改造し、処理促進を計画。



手解体作業の様子(特殊な形状のコンデンサ)  
(作業環境の悪化により、現在では同作業は実施していない。)



短絡等により破裂・変形や内部素子が炭化したコンデンサ